

第1回山形県立図書館活性化会議議事録

日時：平成30年11月5日(月)10:00～

場所：県庁1602会議室

- 1 開会
- 2 教育長挨拶
- 3 委員の委嘱
- 4 出席者の紹介
- 5 委員長の選出
- 6 協議

○文化財・生涯学習課長から、県立図書館の活性化に向けた取組みについて説明。

○説明に対する質疑応答

<逸見委員長>

図書館協議会の役割は何か。

<県立図書館長>

図書館法と県条例で設置している館長の諮問機関。

<高見委員>

高層書架の本はどの様にして取るのか。高い所の本も借りることができるのか。

<文化財・生涯学習課長>

高い所にどのような本を配置するかは今後検討していくが、高い所の本を取る場合は職員に申し付けていただく。高い所の本を取るための台を準備する。落下防止策を含めて、安全性を第一に考えている。

<高見委員>

車を利用しない方が、循環バスで来られるようになっているか。

<文化財・生涯学習課長>

遊学館前を通るルートになっている。

<井上委員>

カフェの食事目的で来館する人もいると思う。その人がカフェを利用している時間の中で本も読めたら、利用者としては最高の環境だと思う。子ども連れの方もターゲットにされているようだが、お子様連れ向けのメニューを提供することも必要だと思う。カフェはどの程度決まっているか。

<文化財・生涯学習課長>

増築して、席数は40席くらいになる予定。

レストラン目的で食事を楽しんでいただけるようなメニューや、子どもから高齢者まで幅広い世代が利用できるようなメニューを提供するほか、コーヒー等のテイクアウトができるカフェのイメージ。

カフェに本を持ち込んで読書を楽しみながら食べていただいたり、飲物をテイク

アウトして本を楽しんでいただくことができないかと考えている。

このイメージに合う事業者があるかも含めて研究している状況。イメージを公表して公募したいと考えている。

<井上委員>

いい企画を考えたとしても、来館者にしか伝わらない、来館しないと分からない、ホームページを見ないと分からないという状況になりつつあるのではないかと思う。情報発信が大切。

<文化財・生涯学習課長>

様々な媒体を使って情報発信したいと考えている。ご意見をいただきたい。

<逸見委員長>

集客の方策とあるが、具体的な数値目標はあるか。

<文化財・生涯学習課長>

現時点で、具体的な数値目標は設けていない。現在年間約 20 万人が図書館を利用している。遊学館の他の施設も含めて、大幅に利用者数が増加するようにしたいと考えている。

<逸見委員長>

大幅にというのは、どれくらいを望んで皆さんから意見をいただくのか。数値目標があるのかも含めて次回まで示していただきたい。

<文化財・生涯学習課長>

次回まで、具体的な目標を考えていきたい。

○協議

<井上委員>

個人の意見であるが、県立図書館は子どもを連れて行く場所としては、ハードルが高い。静かにしなければいけない場所というイメージだった。子ども連れにも優しい施設になるということで大変ありがたい時代になったなと思う。高校生の子どもは勉強することで利用。もっと高校生がフランクに利用できる施設づくりと、その告知をしていただきたい。シニア世代も自由にコーヒーを飲みながら新聞等を読めるようになる。

<藤川委員>

図書館は一方向的なイメージがある。本を読みに行って、借りて読んで返す。図書館に余白が欲しい。一定期間、こういう本はこの様に使っていいですよとか。イベントとか企画は行政の方がしているのかなと思う。

一人の大人がある空間にいて、あることについて話しますとか、10分～15分間ゆるいトークをしますという企画もいいと思う。全然聞いたこともないような企業の方や、あの企業は何してるのかなという企業の方のトークが夜間にあったら、知らない世界への興味で聞きに行くと思う。

県立図書館になんでこんな本があるのかという奇抜な本があるのもいいと思う。県がやるからこそ当たり前じゃないもの。

カフェで月替わりのメニューが楽しめるとか、今月は深夜食堂や美味しんぼのこ

のメニューが楽しめるというのも面白そう。遠い所からでも食べに来てくれると思う。
<高見委員>

保護者として、学校で読み聞かせをする機会が多い。親子コーナーに読み聞かせのお薦め本を展示し、併せて読み聞かせの仕方もレクチャーしてもらえると勉強できる。

各学校に母親委員だけでなく、読み聞かせのサークルもある。グループ同士が集まって、活動を紹介する機会を作っていただけると、図書館に集まりやすくなる。

喜ばれるサービスは、駐車場の無料時間を延長して欲しい。何時間と決められるとゆっくりできない。せつかくカフェもできるから、無料時間の延長若しくは無料にして欲しい。

先日、米沢市立図書館に行ったところ、時間外に本を返却できる夜間返却窓口があり、東根市図書館には、予約した本を時間外に借りられるロッカーがあった。時間外サービスを利用する人もいるのではないかな。

児童サービスについて、米沢市立図書館では、子どもの3か月検診時等に読み聞かせの本をプレゼントしている。この取組みをしていない市町村図書館においても、県のバックアップで実施できるようになるといい。県立図書館の名前入りの本をプレゼントしてはどうか。子育てを始めるお母さんへの情報発信にもなる。図書館に来てくれるのを待つのではなく、出向いて図書館をアピールすることも大事。

利用しやすい市町村立図書館が整備されているなかで、どうやったら県立図書館の存在意義を出せるのか考えた。先日、県内の母親が集まる場で県立図書館のことを聞いてみた。県立図書館を知らない人や、県立図書館のある場所を知らない人がいて、認知度が低いと思った。新しくする今がアピールするチャンスだと思う。最近斬新な図書館もある。参考になる取組みについて、県立図書館で取り入れられるか検討し、いい図書館にして欲しい。

県PTA連合会では、親子読書活動に取り組んでいる。家族で一緒に本を読み、親子読書を通して生涯学習を進め、親子で学び、親子のコミュニケーションも活発になり、親子の絆が一層深まり、子どもの学力も向上することを願っての活動。毎月第3日曜日を家庭の日とし、親子読書の日としている。年1回親子読書便りを発行している。図書館の活動と連携させていければと思う。

<森岡委員>

最近経験した図書館に関係することから6つのことを申し上げたい。

中国政府に呼ばれて、8月に中国の上海と北京に行った。新しく書店を作ることに対して莫大な予算を付けたことが背景にあり、日本の書店や図書館の現状を述べて欲しいということだった。どういうことかということ、ニューヨーク、パリ、サンフランシスコなど成熟した都市をみると、そこには市民の拠り所となる書店や図書館がある。ヤンキースやサンフランシスコジャイアンツなどのスポーツと同様に、市民の拠り所となっている。ニューヨークのストランド書店は観光の拠点にもなっている。そこではTシャツやトートバッグも売っていて、世界中の人が買っていく。本を売るだけではなく、その都市の宣伝もしてくれる。その認識の下、中国政府は書店建設に巨額の予算を付けた。同じ土俵では戦えない。

ショップの運営はすごく難しい。県立図書館ではどういうことができるかと考えた場合、デザインの力を借りてはどうかと思った。90年代の古い考えだが、今治タオルが復活したように、今でも有効ではないかと思う。図書館の哲学を核にしたデザイン（ロゴマーク）を作り、トートバッグやマグカップに展開してはどうか。県民に親しみのあるもの。高度なデザイン性のあるもの。サン&リブが山形代表になったが、芸工大の中山ダイスケさんがデザインして結構売れていると聞いている。

2つ目は、高い棚にある本は問題だと思っている。武雄や多賀城のツタヤのように、棚の上部にプラスチックのダミー本を置くことは避けたい。閉架図書を展示してはどうか。資料性のあるものはしまっておかなければならないが、あえて出して、皆さんにその様子を見てもらう。読みたい方がいたら、職員が取ってあげる。あくまでも本を展開することが必要。

3つ目は、カフェ。例えば、ブルーボトルコーヒーを招致したら、山形県だけじゃなく東北からお客が集まる。センスのあるさかい焙煎所も集客になる。こちらからお願いに行くことも視野に入れてはどうか。周囲にはボタコーヒーもある。周辺商店街とのバランスも重要。

4つめは、集客。金沢21世紀美術館は、年間235万人くらいの来場者がいる。東京国立博物館よりも多く、兼六園よりも少ない人数。理由の一つは、インスタ映え（プール画像）。新しい図書館にはインスタ映えするポイントがあってもいい。太田市立図書館・美術館（群馬県）は最近改修されて成功している。日本各地の成功している事例を吸収していただきたいと考える。

5つ目。県立図書館でも読み聞かせを行っていると思うが、県立図書館なのだから、読み聞かせだけで終わってしまってはもったいない。

生涯学習センターで開催される講座には、著名な作家が数多く来て講演をされている。ポッドキャストというネット上で音声や動画を配信する仕組みを使って配信してはどうか。県内に限らず広域に伝えることができる。ユーチューブに「小さなあなたへ」という主婦の朗読がアップされている。感動して泣けてくる。こういうイメージでSNSを活用してはどうか。

6つ目は、コミュニティを作ってはどうか。フェイスブック等のコミュニティサイトを使ってはどうか。例えば、読み聞かせの好きな県民が、SNS上で会話ができる状態を構築。

ギャラリーが図面になかった。ギャラリーはアーティストの方の表現の場。多くの方が見に来てくださる。カフェを利用してくださる。本を読んでくださる。

2年前の山形ビエンナーレの時に、県立図書館を会場として、図書館探検ツアーを開催した。図書業界で活躍されている複数の方をナビゲーターとして、課題解決のため、図書館内で資料を探し回る旅をするもの。

「伊藤忠太さんについてレポートを2時間でまとめましょう」、「黒川紀章さんが設計した山形ハイドリームランドについて調べましょう」ということで、参加者と一緒に図書館内で調べ物をした。山形新聞を2時間探してやっと見つかった。楽しかった。そういうツアーを企画してもいいのではないか。

12月、六本木の青山ブックセンター跡地に文喫という書店ができる。オープンに

携わったが、通常の書店と違い、新業態書店になる。

<藤川委員>

海外に行ったとき、英語表記がなく、理解しないまま帰ってくることもある。オリンピックもあるのに英語表記がない。観光の一部になるべき、なりうると思うので英語表記は必要。

京都から来た時に、食べ物以外の山形のいいものが分からなかった。

<逸見委員長>

集客の方策について、3年前の基本計画策定時と今の状況は違うので、常に新しい情報を取り入れて検討できるように、何度か検討していく場を作って、常に新しい視点で進めていただきたい。来年度の状況を踏まえた上で検討していただきたい。高い書架は3年前の流行。

県立図書館という固定観念だけではなく、県民が今望んでいるものをいち早くキャッチしていただきたい。行政が主導でやるのはいいが、行政の目線でやるのではなく、県民の目線で。今日のご意見が反映されるような図書館にしていきたい。

遊学館のあるエリアは文化ゾーン。文翔館や遊学館、洗心庵、教育資料館を一連のゾーンとしてとらえていただきたい。複合施設の遊学館だけでなく、点ではなく面で進めていただきたい。

P T Aという非常に大きな組織で読書活動をしている。連携してはどうか。

喜ばれるサービスについて、七日町や遊学館、文翔館の周りというのは、周辺に花小路という飲み屋があるが19~20時になると人がいなくなる。21時または22時まで開館するという理想はあるが、実際そこまで延長していいのか検討していただきたい。現状を見据えた上で判断していただきたい。ドライブスルーや夜間貸出窓口等はいいが、開館自体を延長したりするのはしっかり検討していただきたい。

連携した賑わい創出について、山形ビエンナーレ期間中、非常に多くの方から中心商店街に来ていただいた。山形ビエンナーレなどの様々なイベントと連携して、ぜひ遊学館も活用していただきたい。

県立図書館でやることを念頭に置きながら、今までにないような「エッ」と思うようなイベントを企画していただきたい。集客だけなら市をすればいい。県立図書館の機能向上や、県立図書館をよく知ってもらい、来てもらうことが大事。

従来 of 発想だけではなく、欠席委員の意見や様々な意見を踏まえて、一人でも多くの方が利用できる様な、県民の方に喜んでもらえる様な県立図書館にしていきたい。事務局で再度検討し、次回報告してください。

7 その他

8 閉会